

1996

9

第2号

放射線取扱主任者部会

CONTENTS

1. 新部会長、副部会長ご挨拶
2. 新支部、常設委員会委員の紹介
3. 平成8年度主任者年次大会のお知らせ
4. 平成7年度主任者年次大会報告
5. 放射線安全管理功労者表彰を受賞して
6. 委員会活動報告



Antoine-Henri Becquerel was indicated the radioactivity of Uranium by First autoradiograph on March 1, 1896. He presented his discovery at the French Academy of Sciences and published in a entitled "On visible radiations emitted by phosphorescent bodies".



Japan Radioisotope Association
社団法人 日本アイソトープ協会

新部会長ご挨拶

部会のさらなる発展を祈って



放射線取扱主任者部会
部会長 西沢 邦秀

主任者部会も常任委員会の時代から数えて、この6月から19期に入りました。このたび、はからずも伝統ある主任者部会の第19期部会長に指名され、光栄に思うと同時にいささか緊張を覚えています。微力ながら主任者部会発展のため全力を注ぐ覚悟ですので、どうかよろしくお願ひいたします。

振り返ってみると、私が主任者部会に直接関与するようになったのは、池田長生先生が部会長の頃に中部常任委員会の末席に加えていただいたのが始まりでした。池田先生のもとで、常任委員会制から支部制へ移行する激動の時期にお手伝いをさせていただきました。

支部制へ移行した最初の池田正道部会長は、変革期にあたって強力なリーダーシップを發揮して新体制の骨格を造られました。前任の栗原部会長は、過渡期にある部会の体制を整備して支部制の基礎を固めてこられました。支部持ちまわり主催の年次大会は、主催支部のみならず主任者部会全体の活性化の起爆剤となっています。体制の変革は、これまでのところ成功裡に進んでいるように見えます。私の仕事は、池田、栗原両部会長の整備された路線の上に支部制を根づかせ、軌道に乗せることであると考えています。

組織を機能させていくためには、時代の要請に合わせて機構改革や組織の再編、いま流行の言葉でいえばリストラクチャリングを行っていく必要があるでしょう。できあがっている一つの枠組みを変えることは大変なエネルギーを費やすのですが、それなくしては組織は沈滞

してしまいます。主任者部会は、まだまだ大きな変革の真中にいます。このような時期にあたり、幸いにして役員、事務局の方々は部会の活性化のために意欲的に取り組んでおり、会員にとってますます頼りがいのある部会になっていくものと信じています。

放射線取扱主任者は、放射線施設の運営全般にかかわるとともに日常的な管理実務を直接担当しています。主任者は放射線障害防止法がなければ存在しません。管理運営上、法令の動向は主任者にとって関心の高い問題です。なかなか、ICRP 90年勧告に基づく国内法令の改訂は現在の最重要課題です。ところで、法令は放射線管理のコンセプトを表しており、コンセプトを実現する手段が管理技術です。新しい関連技術の進歩を取り入れる一方で、汚染検査のようなありふれた測定についても、いま一度基本に立ち返って再検討してみる必用もあるでしょう。法令に関する知識と管理技術とのバランスをはかることも大事なことではないかと考えています。

企画委員会、法令検討委員会、広報委員会などはすでに活発に活動しており、着実に成果を挙げつつあります。これらをもとに、支部との役割分担あるいは連携により、部会の機能をよりいっそう多様化していくことも今後の課題です。さらなる主任者部会の発展のために、部会員の皆さんには忌憚のないご意見をお寄せくださいよう、また、部会の円滑な運営のためご協力賜りますようお願いいたします。

(名古屋大学アイソトープ総合センター)

新副部会長ご挨拶

放射線取扱主任者部会副部会長を受けて

放射線取扱主任者部会副部会長 川上 猛雄



昭和37年に初めて RI にふれ、昭和40年に主任者の資格を取得し、それ以来の RI・放射線との関わり合い。

放管にもマンネリになっていたところへ阪神・淡路大震災時のショック、放管に対する自信喪失。昨年より、社内において厄介者としてではなく、その有用性がチョッピリ認知 (High throughput Screening での RI の活用)。そして RI 利用、とくに製薬関係での研究用 RI の衰退がとても気になっていたところへ、これが RI 利用復活傾向につながっているとか。RI 馬鹿の私にとっては嬉しいことです (ただし放管は…?)。

主任者部会でもさまざまな計画が進められています。

「RI の日（あ～る愛の日）」の創設
「21世紀の主任者のあり方検討会」
「JRInet」と新しいメディアによる放射線管理などなど。

主任者部会の今後の活動が楽しみです。そのなかで、何か少しでもお役にたてれば幸いです。とにかく、もっともっと RI・放射線を活用してもらいたいのです。そして、RI・放射線に関わりあった集団——RI・放射線利用者と管理者とが一体となり、社会に対し連帶責任をもって RI・放射線を活用・普及していくかと思ったらと思っています。

(武田薬品工業(株))

新支部長、支部委員の紹介

第19期放射線取扱主任者部会支部長に就任して

北海道支部

ご挨拶

北海道支部長 大西 俊之

私も北海道大学アイソトープ総合センターの放射線取扱主任者をしていますが、北海道は中央から遠く離れているためかもしれません、法令の改正などの RI 関連の情報がなかなか入ってこないもどかしさを感じています。官報による公示や科学技術庁からの文書による通知もありますが、ついつい見落してしまうこともあります。できれば、いつ頃どのようなことが行われるかが分かっていれば見落とすことも少なくなり、また、事業所における放射線管理の計画も立てやすくなると日頃感じています。放射線取扱主任者としての職務を遂行するため

には、このような RI 関連の情報を素早く入手しておくことが非常に大切ではないでしょうか。私たち支部委員は、北海道の部会員の皆さまの情報の入手にお役に立てるよう努力する所存です。

ついでながら、北海道の部会員の皆さんにお



(左より) 田賀、早瀬、大西(支部長)、賀茂、戸田、各委員

願いを申します。北海道支部として毎年、春に教育訓練、秋に講演会または見学会を企画実施しています。このような企画に積極的にご参加いただきて、RIに関する知識の向上、情報の入手や交換に役立てていただきたいと思っています。

(北海道大学アイソトープ総合センター)

東北支部

相变らず、しかし相変わって

東北支部長 中村 尚司

新支部長も3期目となると、抱負といつてもなかなか思い浮かばないのが実状です。しかし昨年秋、主任者部会が始まって以来初めて東北支部が主任者年次大会を仙台で主催しました。このために、25人あまりという多くの部会員の方に実行委員をお願いして熱心に活動していただき、大会が無事成功裡に終わりました。その非常に嬉しい副産物として、10名近くの若手有志の方から支部活動に積極的に参加したいとの希望が寄せられ、この4月から支部委員会に手弁当で参加してもらっています。その中から、たとえば地域社会への広報活動を考えるなどの活発な意見が出され、具体的な活動への取組みを始めてもらっています。また、本部常設委員会にも委員として参加させていただくことになりました。これは、支部活動の活性化にとってきわめて喜ぶべきことであり、この一事からだけでも、年次大会を主催したことは意義深いことであったと思います。

この若い方々の意欲を積極的に伸ばすために活動を支援することが、支部長としてこれからの大変な役目だと思い、この2年間の活動を進めたいと思っています。今年度は第3回目のバーデンゼミナールを9月27、28日の両日、紅葉で美しい玉川温泉（秋田県）の自然放射能調



(左より) 秋葉、大内、中村（支部長）、土橋、本田、各委員

査と銘打って日々的に行いたいと思っていますので、部会員の皆さまの積極的な参加をお願いします。また、ICRP 90年勧告入れによる法令改正が近く予定されていますが、これに関しても、法令規制の合理化を目指している科学技術庁の方針と齟齬することのないよう積極的に発言し、提言していきたいと思っています。

(東北大大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター)

関東支部

関東支部委員会活動について

関東支部長 井原 智

第19期の関東支部委員会には新たに5人の委員が入りました。18期まで部会活動を積極的に行っていただいた委員との交代ですが、新しい委員には今までとは異なる観点からの活動をお願いしています。

関東支部は主任者部会員数の4割強を占める2300名の大きな支部です。すべての事業所の主任者や管理担当者が所属しているわけではありませんが、いずれにしろ大半の放射線取扱事業所の主任者や管理者が参加している支部です。これだけ大所帯になると、わずかな数の支部委員がすべての事業所についての情報を網羅し、意見をまとめることはなかなかできません。今まで、支部活動の大半は放射線業務従事者のための講習会の運営でした。それに加えて主任者セミナーを開催し、放射線管理の在り方を検討してきました。これは今後も充実していくと願っています。

放射線取扱主任者部会も規則を改定し、選任された放射線取扱主任者および資格者に加えて、放射線管理実務担当者や管理に関心のある者、表示付GC取扱事業所の安全管理責任者が参加できるようになりました。このことによって部会活動も変わらなければなりません。放射線取扱主任者の権限などの検討に加え、放射線管理実務についても種々の提言を考えています。管理実務については、近畿支部で作成した放管便利帳のQ&Aに基づいて回答例を作成していますが、つくづく放射線管理は難しいものと実感



(前列左より) 須賀、小林、井原(支部長)、
峯村、杉浦、

(後列左より) 藤井、杉山、石井、

(写真左より) 中谷、西座、林、本田、
各委員

します。個々の事業所で放射線管理に苦労している部会員が多くいることが分かります。

一人で悩んでいないで皆で解決策を見出すことが必要です。そのために放射線取扱主任者部会があるのです。12名のわずかな数の支部委員会ですが、何らかのお手伝いをさせていただきます。どうぞご意見、質問などを支部委員までお寄せください。

(杏林大学医学部)

中部支部が発足してからは、常任委員会の時代から開催されていた各種の講習会、勉強会、研究会に加え、西沢前支部長の発案で支部内の施設の見学会や支部員の交流会も行われるようになり、支部員の間での繋がりが少しづつでは



(前列左より) 羽場、伊藤、高橋、

(後列左より) 木内(支部長)、山田、浜田、

鈴田、

(写真右上) 前越、各委員

ありますましたが、これまでに思われます。これらの財産を引き継ぎ、さらに支部員の交流を深めていきたいと考えています。支部委員ならびに支部員のご指導、ご協力を心よりお願い申しあげます。

(理化学研究所バイオ・ミメティック
コントロール研究センター)

中部支部

ご挨拶

中部支部長 木内 一壽

今回、西沢邦秀支部長の後任として中部支部長を引き受けることになりました。支部を引き継ぐにあたり一言ご挨拶申しあげます。

主任者の置かれている立場は各事業所により異なると思いますが、日常の安全管理面で主任者の抱えている問題には共通したものがあるのではないかと思います。中部支部では支部委員の先生方の協力に加え、支部員皆さんとの交流を通じて情報交換の輪を広げ、さまざまな問題を体系的に整理して解決への糸口を探っていくことができたらと考えています。

近畿支部

放管・草の根ネットワークの重み

近畿支部長 古賀 妙子

支部委員2期目に入り、大変なことになりました。平成6年度主任者年次大会において近畿支部が種を蒔き、水をやり、育てた放管・草の根ネットワークを衰退させずに、さらに多くの会員相互の活発な意見が述べられ、広く反映できる興味のある集まりを続けられるようにと、自分自身に一生懸命言い聞かせることから始めています。

さあ、どうなるか! 皆さんのがんばり感性を、そして新しさに適応できるよう変えていく力も期待しています。皆さんの力添えが、ぜひ必要です。よろしくお願ひします。



(前列左より) 戸塚、古賀(支部長)、朝野、
(後列左より) 前田、安田、山田、
(写真左上より) 五十嵐、田辺、林、吉谷、
各委員

(近畿大学原子力研究所)

中国・四国支部

支部長に就任して

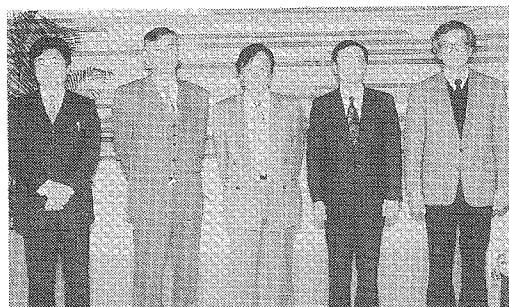
中国・四国支部長 多田 幹郎

平成4年6月に部会員数450名で発足した中国・四国支部は、井出前支部長の2期にわたる尽力と支部会員の支援・協力によって基礎固めが終わり、着実な歩みを始めました。この黎明期に続く大切な時期にはからずも支部長の任に

山大学で開催された第4回中国・四国主任者研修会のさいに開いた支部総会で“支部組織の強化”と“地区活動の活性化”を基本とすることが決められています。具体案は近々新委員による支部委員会を開催して検討することにしています。ここでは、それらについて私の抱負を含めて説明することにより支部長就任の挨拶とさせていただきます。

本支部の部会員数は平成7年8月現在422名と発足時より減少しており、この傾向を止めるだけでなく増大させることが強く望まれます。また、本支部は四国4県、山陽3県、山陰2県の9県と広い地域をカバーしており、支部活動をそれぞれの地域に浸透させるためには、それぞれの地域(あるいは県)単位での活動を活性化することが必要と考えられます。当面、会員数500名ならびに四国地区および山陰地区に活動拠点を作ることを目標として、次の具体案を検討する予定にしています。(1)これまで年1回、広島あるいは岡山で開催していた教育訓練講習会を年2回とし、そのうちの1回を四国地区あるいは山陰地区で開催する。(2)中国・四国放射線取扱施設間にネットワークを構築し、情報交換を容易にして緊密な協力態勢を作りあげる。また個人的には、多くの取扱主任者が「免許を返上したい」とぼやく現状を少しでも改善できるよう微力を尽くしたいと考えていますので、皆さまの積極的なご協力をお願いします。

(岡山大学農学部)



(左より) 増田、大野、多田(支部長)、上畑、
安藤、各委員

着くことになり、大変な仕事を引き受けてしまったものだと責任の重さをあらためて痛感しています。

今期の支部の活動方針については、昨秋に岡

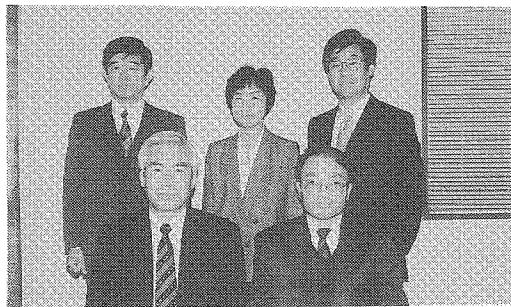
九州支部

ご挨拶

九州支部長 法村 俊之

高島前支部長の後任として九州支部長を仰せつかりました。これまで支部委員をしていましたので、その経験を活かして、微力ではありますが意義ある支部活動であるように努力していきたいと思っています。よろしくお願ひします。いうまでもなく主任者は、わが国におけるアイソトープ・放射線利用の推進に大きく貢献しており、その安全確保の面からきわめて重要な職

務です。しかしながら、主任者は負わされる責任は大きいものの、その地位は利用する立場と管理する立場との板挟みで、かならずしも権限をもって主任者としての職務を遂行できるような状態にはありません。



(前列より) 法村(支部長)、加留部、
(後列より) 酒井、川村、岸川、各委員

主任者の本来の役目である、アイソトープ・放射線を利用する人の役に立つような監督、指導、助言を権限をもって行えるような、誰もが認める専門家としての地位を創るのは主任者自身であり、それには、責任ある主任者としての知識や能力、資質を身に付けるように研鑽を積むことも必要だと思います。私の役目は、お世話ををする他の支部委員の先生方と協力して、一人でも多くの支部員の皆さまが主任者としての職務を責任と権限をもって遂行し、活躍できるよう支援し、協力することだと思います。支部の事務局も、財団九州環境管理協会の厚意によって従来どおりに事務処理を行っていただけることになっていますので、気軽に要望、意見などお寄せください。皆さま方の積極的なご協力をお願いします。

(産業医科大学医学部)

常設委員会 新任委員の紹介

企画委員会新任委員

企画委員会は、新任5人と再任3人の計8名の構成で行います。ここに新任委員のプロフィールを紹介します。再任委員を含めた新たな委員構成の活動にご期待ください。



○佐藤 和則氏

昭和57年より14年間、東北大學加齢医学研究所の放射性同位元素室において放射線管理実務を担当されています。仙台で開催された昨年の年次大会における精力的な活動実績から、東北支部より推薦されました。只今、コンピュータネットワークを利用した放射線管理にのめりこんでいる様子です。当委員会もこの新しいメディアを活用し、部会員からの効率的な情報交換および貴重な意見・経験データの入手など、新しい戦力として期待されます。また、インターネット会議も楽しみです。なお、趣味はコンピュータのほかに、山を歩き、キャンプを楽しみ、夜の星空を見上げてアウトドアライフを堪能されています。

○志野木正樹氏



現在、神戸薬科大学薬学部のアイソトープ実験施設において主任者を担当されています。学生時代に放射化学分析と出会ったのが縁で、放射線との係わり合いは利用者として30年間です。昭和43年より主任者部会に入会して管理の実務を兼務しており、管理者として二足の草鞋を履いてアイソトープを見つめてきました。また、昭和50年から主任者に選任され、平成3年からは同大学放射線安全管理委員会委員長として責任ある立場を努めておられます。さらに今年4月に新アイソトープ実験施設が完成し、新たな放射線との付き合いがスタートしました。近畿支部からの推薦で、主任者のあり方、放射線の有効利用と安全管理の企画などに期待されます。

○砂屋敷 忠氏



現在、広島県立保健福祉短期大学放射線診療技術学科で、おもに放射線管理学を担当されています。放射線との出会いは子供の頃、広島原爆を遠望した昭和20年8月6日まで遡ります。そんな思いから放射線技師となり、40年前に国立公衆衛生院に勤務し、広島大学原爆放射能医学研究所に出向したのち同大学病院に転勤、放射線科技師長を

務めてこられました。昨年退職し、現在の勤務先で主任者を担当し、放射線のあるところ放射線防護が不可欠と熱い情熱を傾けて教育されています。とくに医療放射線に関しては、防護と利用のバランスが国際的にも影響すると考えておられます。主任者部会では評議委員も歴任されてきました。

○宮本 昭一氏



現在、株千代田テクノルRI統括部技術部長を担当されています。今年4月に社名変更があり、旧社名は千代田保安用品株でした。青森県むつ市で育ち、子供の頃から原子力船「むつ」の寄港問題がありました。そんな関係から、就職先が原子力・放射線関係分野に進むきっかけとなりました。昭和48年に入社して以来23年間ずっと営業畑を担当、今年から技術畑を担当されています。営業時代には多くの病院のX線施設、核医学施設、放射線治療施設、および研究用放射線施設などの放射線関連施設の状況を見る機会ができたとのことです。今後も主任者部会活動を通して、放射線が安全に利用されていくことを念願されています。

○村上 博幸氏



現在、日本原子力研究所東海研究所保健物理部で線量計測分野を担当されています。出身は福岡県です。昭和54年に同研究所に入所、東海研究所の放射線管理業務を2年間担当されました。その後、おもに個人被ばく線量測定、測定器の校正および測定技術開発業務などに従事されてきました。昭和63年に1年間、米国オークリッジ国立研究所に留学、その後は、放射線防護用測定機器の校正法に関する研究に従事されています。とくに最近はIAEAの放射線防護強化プロジェクトを通じて、アジア太平洋地域への技術協力にも積極的に携わっておられます。なお主任者部会では、法令検討委員、関東支部委員を歴任されてきました。

(企画委員長 菊地 透)

広報委員会新任委員

広報委員会は、新任1名と再任7名の計8名

の構成で運営いたします。ここに新任委員のプロフィールを紹介します。新任委員を迎えて、新たな気持ちで広報活動に取り組む決意です。ご支援のほどよろしくお願ひします。

○目崎 高志氏



東京都立駒込病院放射線診療科で6年間、現在の東京都立墨東病院診療放射線科では平成7年4月から核医学の放射線管理業務に従事されています。都立病院では、医師が放射線取扱主任者に選任されて放射線管理室などもないため、放射線管理面ではいろいろ苦労があるとのことです。オートバイのツーリング歴が長く、毎年夏休みには愛車のBMWを駆って1週間くらい全国を乗り回しておられるそうです。その若さと行動力に、広報委員一同期待しています。

(広報委員長 松沢隆嗣)

法令検討委員会新任委員

法令検討委員会は、新任3人と再任6人の計9名の構成で行います。新任委員のプロフィールを紹介します。

○野村 紀男氏



昭和58年に動力炉・核燃料開発事業団に入社し、大洗工学センター安全管理課に配属されてから放射線管理業務に従事されています。この間、高速実験炉

「常陽」及び燃料材料開発施設の放射線管理に携わり、原子力施設の放射線管理について、現場及び管理する側の両面を経験してこられました。現在は、本社安全部管理課に所属され、原子力施設を含めた安全管理業務全般を職務としておられます。

○宮武 秀男氏



京都大学放射性同位元素総合センターに在職して以来、20年の長きにわたり放射線管理業務に従事されています。平成3年4月から平成8年5月まで、放射線取扱主任者部会関西常任委員会常任委員および近畿支部委員会委員を歴任され、委員会活

動に専念いただきました。法令検討委員会のなかで、「関西風味」の味付けを期待しています。周辺環境（住民）に配慮したうえでの、放射線（放射性同位元素）利用の手助けとなる柔軟な放射線管理を理念としています。趣味は四季折々の釣りと、職場の仲間とボーリングを楽しむこと。

○渡辺 雄三氏

現在、順天堂大学医学部放射線管理室に勤務。昭和22年生まれ。昭和49年に東京都立診療放射線技師学校を卒業。順天堂大学医学部附属病院に診療放射線技師として勤務されているとき、



2年間医学部放射線管理室へ出向。昭和59年よりそのまま放射線管理室勤務となり、昭和63年より順天堂大学医学部の放射線取扱主任者に選任されています。

画像情報処理のため、当時は高価だった大型電算機を自由に使わせてくれるという助教授の甘言に乗り、放射線管理の世界から逃れられなくなったとか。現在は、放射線総合管理のコンピュータシステム完成に取り組まれています。

（法令検討委員長 中田穰治）

平成8年度主任者年次大会（第37回主任者研修会）のお知らせ

平成8年度主任者年次大会実行委員会

「あなたが主役！」

平成8年度主任者年次大会は11月14日(木)、15日(金)に東京・日比谷の学習院創立百周年記念会館でおこなわれます。今年の年次大会を「あなたが主役」という主題で運営したいと実行委員会では考えています。主な内容は次のように企画していますが、これらのどこかに参加者のあなたが積極的に参加して下さることをお待ちしております。

11月14日（木）	
総会	
講演	森田健二氏（科学技術庁原子力安全局放射線安全課長（11時15分～12時00分）
特別講演1	熊取敏之氏（放射線影響協会理事長）（14時15分～15時15分） 「私と放射線——ビキニから Chernobyl まで」
シンポジウム	「私の放射線管理」（15時30分～17時30分）
研究発表	○ポスター展示 ○パソコン展示（ソフト等）、他
草の根	昼食時に各グループに分かれて情報交換を行う（2時間程度）。
ネットワーク	〔グループ〕：ECD ガスクロ、医科系大学（医療関係者を含める）、製薬、 非密封・大学・研究、教育訓練研究交流会、その他
交流会	（軽食と飲物、参加費は無料）
11月15日（金）	
研究発表	○口演 ○ポスター展示 ○パソコン展示（ソフト等） ○ビデオ発表、等
特別講演2	大谷貴子氏（全国骨髓バンク推進連絡協議会副会長）（11時00分～12時30分） 「白血病、骨髓移植、そしてボランティア」
セミナー	「放射線管理Q&A」（13時30分～15時30分）
施設見学	年代測定室、生命分子科学研究所
11月14日、15日共通	パソコン通信、機器展示、質問・相談コーナー、他

【参加費】 1万円（2日間有効）。参加者には、要旨集、放管便利帳を配布。参加登録は当日受付。なにはともあれ、まず年次大会に出席されること。そして「あなたが主役！」として活動されることをお願いします。

問合せ先：(株)日本アイソトープ協会 学術部放射線安全課内
放射線取扱主任者部会 年次大会実行委員会事務局
電話：03-5395-8084 FAX：03-5395-8053
E-mail：anzen@sun1.jria.or.jp

平成7年度主任者年次大会報告

第36回主任者研修会

平成7年度主任者年次大会実行委員会

今年度の年次大会は、東京、大阪、名古屋以外の地では初めての試みとして、東北支部が主催して仙台で開催された。東北カラーを出すために大会は1日目だけとし、2日目は見学会とした。400名以上の大会参加者を得、見学会参加者も200名以上、懇親会も150名を超えてお断りするほどの盛況であった。主催者として喜ばしい限りであり、いろいろな面でご尽力いただいた皆様にこの場を借りてお礼申し上げたい。

以下に年次大会の概要を報告する。

【年次大会報告】

(部会活動報告)

菊地本部運営委員が本部委員会等の活動について報告した。ここでは大事な点を3つ紹介しておきたい。1つは部会規定の改正で、その内容は、①部会員の範囲の拡大（主任者に加え現に放射線管理実務を行っている人、法人又は団体も部会員になりうる）、②副部会長を1名から若干名に増やす、③評議員会の廃止、が主なものである。2つ目は「主任者ニュース」という新しいニュースレターが創刊されたことで、今大会参加者全員に配布された。最後は、次期（第19期）支部委員の選挙である。投票率向上のため部会員の方々のいっそうのご協力をお願いしたい旨の要請があった。

(特別講演)

特別講演I 「放射線安全行政について」

科学技術庁放射線安全課長 森田健二氏

講演では、審議中の科学技術基本法の話に始まり、今後のわが国の科学技術の推進を図るために放射線の利用は不可欠のツールの一つであることが話された。さらに、放射線利用を推進する上で、1) 放射性同位元素の貸貸、2) 表示付ECDガスクロマトグラフの管理の合理化、3) 許可証の変更手続の簡素化、といった改正を行ったこと、今後も規制の合理化を着実に進めしていくので、主任者部会からも要望を寄せてほ

しいことが述べられた。

次に、今年度の放射線安全管理功労者表彰の報告、また低線量被ばくの健康への影響について、5年間にわたり行われた疫学調査結果の報告がなされた。また、ICRP 90勧告の国内法令への取り入れを、現在検討中である旨報告があった。

特別講演II 「縮み嗜好の放射線防護」

東北放射線科学センター会長 栗冠正利氏

放射線の利用は、医学利用を除けば縮み嗜好にある中で、いかにビジネスとしての放射線防護を行うか、極めて明快に、例を挙げながら解説された。またICRPの放射線防護の3原則の種々の矛盾を指摘され、この矛盾を克服するための方策として3つのK（1. 簡単、2. 効果、3. 恒常的）を提唱された。特に強調された「現行法の数字を変えるな」という点は、ICRP 90年勧告の国内法令への取り入れが論議される中で極めて重要な意見と思われる。また放射線発癌による死亡についても解説され、日本人の癌死について非常に興味深い結果をスライドで示された。栗冠先生ならではの歯切れのよい、示唆に富む講演内容であった。

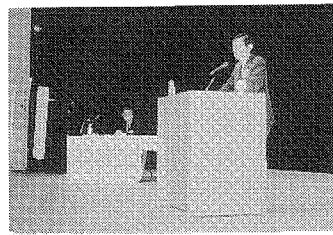
(シンポジウム)

シンポジウムI 「放射線に係わる緊急時の対応」

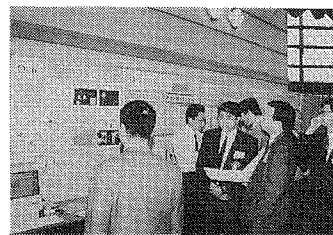
このシンポジウムでは、主任者部会近畿支部長川上猛雄氏による「阪神大震災における放射線施設へのボランティア活動」、元日本アイソトープ協会鈴木英世氏による「放射性同位元素等の輸送時の事故対応等」、東京消防庁警防部特殊災害課吉田史郎氏による「放射線施設の火災時の対応等について」という3題の講演が行われた。川上氏は、緊急時における主任者相互の連絡・応援体制の確立が必要であり、連絡用名簿の整備をはじめ放管機器の貸し借りなども含めたマニュアルの作成が重要であることを力



部会活動報告



特別講演



ポスター発表

説された。鈴木氏は放射性輸送物の種類とその試験基準、及び事故等の緊急時における連絡・支援体制の整備の必要性について話され、また、応急措置の一つとして、関係機関へ速やかに連絡を入れることを強調された。吉田氏は、まだ記憶に新しい地下鉄サリン事件で活躍した化学機動隊が放射線施設の火災にも対応することを話され、その特殊装備（サーベイメータ、ガス分析器など）をスライドで示された。

シンポジウムⅡ 「法規制の合理化」

ここでは、主任者や管理実務者が望んでいる「法規制の合理化」というテーマで2人のシンポジストによる講演がなされた。

栗原紀夫氏（京都大学、部会長（当時））からは、今年施行された一部法改正の概要に加え、望まれる合理化として国立大学アイソトープ総合センター放射線安全管理検討委員会から出されている提案と要望7項目の紹介・説明がなされた。

西沢邦秀氏（名古屋大学 中部支部長（当時））からは、合理化とは、しめすぎはゆるめる、ゆるめすぎはしめる、ぬけているのはうめるということであるとの認識のもとに主として運用でも十分対応できそうな合理化への要望が述べられた。そして、皆で合理化を繰り返し主張することによりすこしづつでも前進させることの重要性を強調された。

（ポスター発表）

地震に関するテーマ5題、施設紹介4題、管理技術13題、コンピュータ利用に関するもの9題合計31題、パネル数で34枚の発表があった。アンケートの結果から次の優秀ポスターが選ばれ、表彰された。施設紹介部門：広島大学医学

部 RI 研究施設紹介、地震部門：神戸薬科大学（日常のガスモニターの地震予知への利用）、管理技術部門：新潟大学脳研（放射性ヨウ素の飛散と捕集）と山梨医科大学（使用後の鉛ブロックの利用）、コンピュータ及びネットワーク部門：（放管草の根ネットワークの現状と今後）と（医系グループ過去・現在・未来）。

（懇親会）

会場の入口とステージには仙台七夕の笹飾りが華やかな彩りを添え、BGMに「青葉城恋唄」が流れる中、知己との再会はたまた新しい出会いを求めての交流が活発に行われた。宴たけなわとなった頃、年次大会懇親会初の試みビンゴゲームが行われた。1等賞には宮城の銘酒“浦霞 禅”、2等賞にはとれたての新米“ひとめぼれ”、3等賞には青森のりんご以下牛たん、笹蒲鉾等々、会場の熱気はとどまることなく盛り上がった。そして、名残を惜しみながら「来年もまたお会いできますように」との願いを七夕にたくし、閉会した。

【見学会】

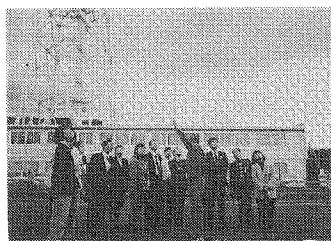
11月2日（木）、視察調査を目的とした見学会は、216名の参加を得て3コースで実施された。当日は、集合時間が早朝にも拘らず遅刻者もなく、6台のバスに分乗して予定通り各コースに出発した。

（女川コース）

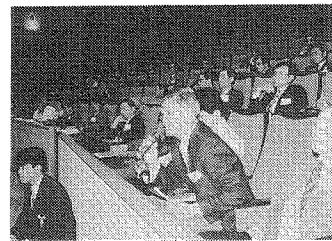
市内渋滞のため、予定より15分遅れで女川原子力 PR センターに到着、途中石巻市にて、伊達政宗の命を受けた遣欧使節・支倉常長が乗船した帆船・サンファン・バウティスタ号の勇姿、出帆地である月の浦を駆け足で見物した。



懇親会



視察調査



会場風景

PRセンターでは、マルチスライドによる迫力ある映像を堪能し、原子炉の $\frac{1}{2}$ の模型等で分かり易く原子力発電所の仕組みを解説して頂いた。原子力発電所では、本年7月に営業運転を開始した2号機の中央制御室、原子炉建屋及びタービン建屋を視察した。所内は通路、部屋何処も綺麗に塗装が施されるとともに良く磨き上げられており、物品も整理・整頓されていて、きめ細かな管理の一端を伺い知ることができた。管理区域へは見学者専用の更衣室で白衣・靴下等を着用することで、負担なく入域でき、中央制御室をガラス越しで見学できる専用の部屋が設けられているなど見学者に配慮された設備が整っていた。帰路は、女川町内のマリンパル女川に立寄り、新鮮な海産物を土産に渋滞もなく定刻前に仙台駅に到着した。

(滝沢コース)

仙台での青空が、岩手県に入ると曇り空となり、平泉では雨、北上を過ぎたあたりから雪となり、滝沢でバスを降りるとそこは全くの雪景色であった。

滝沢・平泉コースは放射線取扱主任者・管理実務者として関心の深い放射性廃棄物の処理施設である(社)日本アイソトープ協会茅記念滝沢研究所および小型サイクロトロンを用いたPET・PIXEの全国共同利用施設である仁科記念サイクロトロンセンターを視察調査した。茅記念滝沢研究所では、自分たちが出した放射性廃棄物が処理されていく行程を視察し、今後の放射線管理実務に生かせる貴重な体験をした。仁科記念サイクロトロンセンターではPET・PIXEの研究内容を紹介していただいた。廊下に張り出されたPET画像に関心が集まった。オプションとして組込まれた平泉・中尊寺の観光では、

秋の藤原祭りの最中で、きれいに咲き誇った菊と、「五月雨の降のこしてや光堂」とうたわれた「雨の金色堂」を楽しんだ。

(東北大コース)

東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンターでは、中村教授から、昭和52年に設立された時からのセンターの歴史、施設の目的、研究環境など全体の説明があった。稼働中のAVFサイクロトロンを停止させて、本体室のサイクロトロンを直に見学できた。また、伊藤教授からは、ポジトロン断層撮影装置(3台)を使ったガンの診断、脳の高次機能のマッピングなど最先端の研究成果の紹介があった。質問が沢山出され、予定時間を30分近くオーバーする見学になったが、それでも足りず、センターから松島に向かうバスの中でも活発な意見交換が行われた。

松島では昼食の後に自由時間が設けられたが、大学での見学が延びて自由時間が短くなかったことや、折からの秋一番の寒波が襲来していたことも重なって、市内観光もそこそこに仙台へ戻ることとなった。

【年次大会を振り返って】

大会準備は、かなりの覚悟と計画を持ってスタートしたつもりであったが、苦難の連続の1年であった。その度に事前アンケートで頂いた激励を思い起こし何とか乗り切ることが出来た。東北6県の各地域から25名の実行委員と5名のオブザーバーが、東北支部で初めての大会を一致団結して開催し、盛会裡に終了させ得た経験は、今後支部活動の活性化の芽となり、やがては一本の大樹に育つものと確信する。

放射線安全管理功労者表彰を受賞して

放射線だけの管理ではない

井 原 智

人類の放射線との関わりあいのこの100年のうち、その約3分の1の期間の放射線管理を私自身体験してきて、管理とは放射線だけの管理ではないことを実感しています。管理を行うために重要なことは、使用者との親密な対人関係です。さらにもう一つは、一覧形式の記録です。これを永年努めたことで、今回推薦されたものと考えています。

大学院修了後、主任者資格の縁で聖マリアンナ医科大学医学部で主任者となりました。専任の管理者になると使用には関与しませんから、現場が理解できません。理解するための一一番よい方法は、使用者との意思の疎通だと感じました。その後、現在の杏林大学医学部RI研究部の管理室へ管理者として異動しましたが、ここでも使用者との対話に心がけました。

使用者の中には、放射性同位元素実験には向いていないと断言したくなるような無茶をする人がいます。そのような資質の人にでも、根気よく話し合いをして分かってくれるようにすることが肝要です。うまく管理するためには、使用

者がなんでも相談してくれるような、そして、管理者がなんでも言えるような親密な関係になっていることが必要だとつくづく感じています。

記帳については使用者の要望を入れ、記録様式も随分改訂しています。しかし、使用者の記録だけでは管理はうまくいきません。使用者の記録を元帳として、それを一覧形式にした別の管理台帳を作成することをお勧めします。もし放射線障害が発生するとしたら、使用から相当時間が経過してからですから、そのときに過去に遡って当時の状況を把握するためには記録だけが頼りになります。ちなみに、現在私の管理記録用紙類は約100種類になっています。

現在、主任者部会関東支部委員（現在、支部長）として「放射線管理Q & A」の回答例を作成しています。困っている管理者の方は、どうぞ主任者部会にご相談ください。今年の年次大会も、主任者・管理者の意見交換の場としたいと願っています。

（杏林大学医学部共同研究施設）

非メビウスの世界

加 藤 和 明

私は、日本原子力研究所や東京大学高エネルギー物理学研究所勤務を通じていろいろな形で「放射線安全管理」という仕事に係わってきました。そのことを通じて今回「放射線安全管理功労者」として表彰されたことは、身に余る光栄であり、誠にうれしく思っております。

主任者業務と管理業務に係わった経験の中から喜怒哀楽の中から思い出の一端を記します。放射線安全管理という仕事はいわゆる「実学」の典型であり、求められる答を出すときには時

間的制約があるのが普通であり、しかも出した答の正否は時間をおかずやがて明らかになる、という宿命を負っているのです。これは大変厳しいことで、遊びの学問とは根本的に違うところです。加速器の運転責任者から夜中、しかも寝入り端に何回も叩き起されたのも辛かったですが、本当の辛さはこういう所にありました。

放射線安全管理には人とのつき合いが避けられません。人には、表と裏（非メビウスの世界）があり、それぞれにかなり普遍的な真理があることを知りました。その意味で、土居健郎著の「表と裏」には学ぶところが多くあったと思いま

す。主任者必読の書と言って良いでしょう。放射線管理の実務に携わったことで実に多くのしかも実に多種多彩な方々と出会うことができました。これは大変な余録でした。

「放射線安全管理」という仕事が自分の能力を越えるものだったか否かは自分では良く分か

らないのですが、当人としては実に性に合っていたと思います。このような職業に就くことができたということは、大きな事故に遭わずに済んだことと合わせて本当に幸せなことと感謝しています。

(茨城県立医療大学)

企業における放射線管理

川上 猛雄

「京都農園の○○さんから電話がありましたよ」——折り返し電話をしてみる。「やあ、久しぶり。このたびはおめでとう」と懐かしい昔の上司の声。「見たよ、よかったね。とにかく、もっと活用せんとアカンな。外国では臨床にまでホットを使ってるぜ」と昔の同僚の声。

当社におけるRIの利用は非常に早く、昭和34年に開始された。私は昭和41年入社後、昭和56年まで、放射線管理と放射線化学・標識候補化合物合成実験と二足の草鞋をはいていた。所長室(企画・調整)を3年経験した後、再度、RIに戻ってきたとき、この経験が放射線・RIの管理一辺倒であった私に、放射線・RIの活用・有用性に目を開かせてくれた。

RIは「金食い虫」とよくいわれる。しかし、社会に対する責任を考えれば当然のことであり、それよりも、放射線・RIの利用はもっと多くの利益を生み出す、この有用な手段をもっともっと活用しなければ多大な損失であると信じている。最近、世間では毒物・劇物、RIなどの管理

について注目されだしているが、この中で、RIは相当十分な管理体制ができあがっていると自慢してもいいはずである。「放射線障害防止法」は、その点では非常に進んだ優れた法律である。少なくとも、相当自信をもって管理しうる技術をすでに確保している。

その一方で、世間の人々を裏切らないような、「うんRI? あれはよく管理ができているから大丈夫だよ」といわれるくらいの放射線安全管理を目指したい。

今回の受賞は、RI排水槽更新などにみられた安全管理に対する積極的な会社の姿勢、放管実務者の努力、実験者の協力、等々が実を結んだものであり、社外にあっては、主任者部会・ボランティアの皆さんからのバックアップのお陰であると確信している。今後は、企業内にある以上、ただ単なる管理というだけでなく、RIの有用性を認識・普及させ、会社の業績にもささやかながら貢献していくと共に、さらなる主任者部会の発展のために、努力をしていくことにより、この名誉に応えたい。(武田薬品工業㈱)

素人の放射線管理を続けて

武関 满喜子

今から22年前の春、「放射線管理の方が見つかるまでの電話番なら私でも大丈夫かしら」と軽い気持ちで、放射線管理のメンテナンスを行っていた会社から派遣されて自治医科大学附属病院の核医学センターに来ることになったの

が私と放射線との最初の出会いで、放射線管理の仕事に係わる事の起りです。

その頃は放射線のことや、まして線量のことなど何も知らなかったのです。このとき、放射線について何も知らないことの恐ろしさを知りました。

それからは必死にノートを取り、放射線技師

さんから放射線や安全管理に関する事を教えていただきました。そしてこの頃から、放射線管理の仕事を自分の仕事にしたいと考えるようになりました。昭和54年より私はRIセンターの技師として放射線管理の仕事をすることになりました。

今まで放射線管理の仕事を続けてきて嬉しかったのは、研究者がRIセンターで行った研究成果が論文となり、雑誌に投稿されたり学会で発表できたといって、管理室にきてくださるときや、数多くの研究者、大学院生、臨床の合間にきて研究をしていた若い医師たちが RI センターから卒立っていくことです。

放射線管理の仕事は、とくに大学の共同利用施設では、主任者や管理室員だけの力ではやっ

ていけません。何といっても放射線を利用する研究者、医師、技師、その他事務職員ら多くの関係者の放射線の利用と安全管理に対する理解と協力がなくては成り立たない仕事です。今回の放射線安全管理功労賞を受賞したことも、こうした皆さまの理解と協力の結晶と思っています。

今回の受賞を励みに、これからも気を引き締めて皆さまのご指導とご協力を得て、素人は素人なりに頑張り続けていきたいと思っています。またこのことが、全国さまざまな放射線事業所において放射線安全管理に努めておられる方々の励みになればと、おこがましくも思っています。

(自治医科大学 RI センター)

委員会活動報告

企画委員会

企画委員会委員長 菊地 透

第18期の企画委員会を終わるにあたり、私は19世紀末にレントゲン、ベックレル、キューリーらの偉大な科学者達の功績により、放射線・放射能の発見から100年の利用と防護の経験を得てきました。今、2世紀目を迎えた放射線利用に対して、さらなる21世紀に向けた主任者の果たすべき役割、主任者のあり方について提言する「21世紀の主任者部会活動に向けて」と題した報告書を作成しました。なお、この報告書の概要は、Isotope News誌の主任者コーナーにも概要を掲載する予定です。

また、支部委員選挙制度を検討し、選挙日時の時間的な制約上、支部委員選挙管理委員会も担当しました。なお、支部委員選挙は投票総数425件を得て、19期支部委員の50名（新任22名）が、選出されました。

そして、今後も次の19期主任者部会の青写真を作り、部会の舵取り役として活動します。なお、19期企画委員会構成は、新任企画委員5名を加えた8名です。この新しきメンバー構成で主任者と管理実務者のさらなる向上と部会活動の発展のために、魅力ある企画を検討します。

特に検討すべき主な事項として次のことを掲げる予定です。①選任主任者と団体会員（事業所会員）の加入及び会員組織率の強化。②主任者及び放射線管理者が備えるべき知識と技術。③放射線・RIの安全利用の普及、啓発する日として「RIの日」の設置。④「21世紀の主任者のあり方検討会」の発足等を行い、主任者部会の中期・長期展望を具体的に企画・検討します。会員皆様からの意見・情報と協力をお願いします。

法令検討委員会

法令検討委員会前委員長 諸澄 邦彦

法令検討委員会の活動報告と今後の活動予定を下記に示し、個々の課題について主任者部会員からの意見をいただきたい。

まず第一に、昨年「医療施設における放射線取扱主任者の選任について」の意見書をまとめ、科学技術庁原子力安全局放射線安全課及び厚生省健康政策局総務課医療放射線管理専門官と面接し意見交換を行った。その後、厚生省健康政策局の「医療放射線管理の充実に関する検討会」がまとめた報告書の中で、「放射線障害防止のための責任者を医師、歯科医師又は放射線

障害防止法の放射線取扱主任者の資格を有する者から選任することが必要。」との提案がなされている。今後も、医療施設における放射線管理について検討する予定である。

二番目として、「ICRP 90年勧告の国内法令取入れ」に関して、Isotope News誌3月号に掲載したアンケートを、4月末の締め切りで分析し、関係当局に意見書として提出する予定である。今まで主任者部会として意見をまとめた事項は、①放射線管理における主任者の職務・権限、②管理区域及び監視区域の設定、③線量限度の3項目であるが、今後、放射線審議会基本部会打合せ会より出される中間報告を見ながら、放射線管理に直接関係する事項について当部会の意見が反映されるよう取り組みを強めたいと考える。

三番目に、「放射線安全規制のあり方に関する検討課題」として、現行法令の中で放射線管理実務に直接的、間接的に関係する事項についての検討を進めている。今年度中に法令検討委員会(案)として部会員に提議しご意見をいただき、より適切な放射線管理の実現に努力する予定である。

広報委員会

広報委員会委員長 松沢 隆嗣

「主任者部会における新しい通信メディアの取り入れ：JRInet の新装開設と会員募集」

広報委員会では主任者部会における新しい通信メディアの取り入れについて検討してきた。パソコン通信、インターネット等の新しいメディアは、従来の通信手段では得られない質・量の情報を双方向、リアルタイムに交換することを可能とし、その利用は急速に拡大している。当部会においてもその取り入れをはかるべき時にきていた。

これらの通信手段を利用できる部会員がまだまだ限られているのも現状であるが、2年前に近畿支部を中心に開設された「JRInet」を発展的に移行するかたちで、商用BBSのCUGを用いたパソコン通信を本年6月より開設するにいたった。当面は、本部(事務局)と各支部、委員会および加入可能な部会員間で、本部(事務

局)からの部会情報の提供や協会情報の提供、本部と各支部、委員会および部会員間の情報交換や文書の送受信等に主体を置く。将来は、放射線管理のための各種情報、データやQ&A等も整備し、部会員であれば誰でもアクセスできる放射線管理に有用なシステムを構築し、部会員相互のコミュニケーションにも役立てていきたいと考えている。

アクセスできる環境にある部会員の方々の積極的な加入をお願い致します。加入についてのお問い合わせ等は、下記事務局まで。

(加入申込みまたは問合せ先)

紹日本アイソトープ協会 学術部放射線安全課

放射線取扱主任者部会

TEL. 03-5395-8084

FAX. 03-5395-8053

編集後記

◆4年に一度のオリンピックが暑い夏とともにやってきました。アトランタでの若人のすがすがしい活躍が一眼の清涼剤となりました。暑い夏とともにやってきたもう一つの出来事、O-157 罹は人々に細菌の恐ろしさをさまざまと見せつけました。目に見えない大腸菌が相手だけに予防もやっかいです。

◆放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律の一部が改正され、主任者以外の方でも放射線管理に携わる可能性が出てきました。主任者部会は放射線管理実務に携わる全ての方が参加できる集まりで、様々な活動を通して主任者の地位向上と情報提供を行っております。是非入会されますよう、お誘い申し上げます。

◆昨年の第1号に続き、無事第2号の発行の運びとなりました。今後も皆様の日常業務にご活用していただけるよう、身近な情報を提供してまいります。

発行日 平成8年9月1日

発行 紹日本アイソトープ協会

113 東京都文京区本駒込2-28-45

(連絡先) 学術部放射線安全課

電話 03-5395-8084 FAX. 03-5395-8053